

希少種保護に

十分な配慮を

農業整備7事業を審議

徳島県の農業農村整備事業について学識経験者らが環境保全の観点から意見を述べる「県田園環境検討委員会」（委員長・角野康郎神戸大学教授）が八日、県庁であった。十委員が二〇〇七年以降に工事が予定されている七事業を審議。希少種への十分な配慮や工事後のモニタリングの徹底を求める意見が出された。

対象になったのは徳島

市や美馬市、阿南市などで計画されている農道、ため池整備事業など。県が各工事の概要と環境保全策を説明した。

このうち、レンコンの水田が広がる鳴門市大津町で排水路と農道を整備する経営体育成基盤事業に関しては、国のレッドデータブックで絶滅危惧（きん）I類に分類されている淡水魚カワバタモロコ（コイ科）が同地区の水路に生息しているこ

とから、委員から慎重な保全策を求める声が続出した。県は魚が生息しやすい空間をあけた魚巢ブ



環境保全の観点で意見を出し合った県田園環境検討委員会＝県庁

ロックを水路の護岸に採用するなどとする案を説明した。タリリング調査結果を三月の次回会合で提出することとした。

このほか、工事に伴って希少植物などを別の場所に移した後の検証の重要性を指摘する声が出され、県はこれまでのモニタリング調査の結果も踏まえて、さらに審議を深める。県は委員会での意見を計画に反映させる。